

(様式1-2)新規評価シート

建設部 砂防課

事業名	砂防(砂防堰堤の老朽化対策)		路河川名等	(砂)烏川			
事業毎の通番	1	市町村名	安曇野市	箇所名(ふりがな)	堀金烏川(ほりがねがわ)		
事業概要	事業目的	烏川では、既設の砂防堰堤が効果を発揮し、下流の集落や田畑の土砂災害を防いでいる。しかしながら、アーチ式の大型石積堰堤である野山砂防堰堤は水通し部の間知石が欠損するなど老朽化が著しく、また旧基準により設計されていることから不安定な状態と考えられる。また、平成30年7月豪雨では広島県内において既設石積堰堤が流出する事例も発生しており、同様の事態となる危険性がある。 このため、既設石積堰堤の代替となる砂防堰堤を新設し土石流災害を未然に防止するものである。					
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-1 県土の強靱化(災害に強いインフラ整備)	事業実施の根拠法令等	砂防法			
	関連する事業、計画等						
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	人家692戸、指定避難場所(上原公民館、西原公民館、穂高認定こども園) (主)塩尻鍋割穂高線ほか県道2路線、林道橋1橋					
	着手年度	2022年度(令和4年度)	事業期間	9年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)	
完成年度(見込み)	2030年度(令和12年度)	費用対効果	15.9	国庫	その他 県債 一般財源		
全体事業内容(主な工種)	砂防堰堤 1基 (H=25.0m、L=67.0m)			3,000,000	1,500,000	1,200,000	300,000
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	人家、指定避難施設、重要交通幹線などの保全					
	間接的効果(定量的・定性的)	災害に強い地域づくり					
評価の視点	必要性	○保全人家 : 692戸 ○保全公共施設 : (主)塩尻鍋割穂高線ほか県道2路線、上原、西原公民館、安曇野市認定こども園 他 ○保全要配慮者利用施設 : 安曇野市穂高老人福祉センター、安曇野市地域包括支援センター ○避難場所、避難路 : 上原公民館、西原公民館、安曇野市認定こども園			評価	A	
	重要性	○災害履歴 : 災害履歴地(平成11年6月) ○交通影響 : 影響度中(林道橋(本沢橋)の遮断) ○位置付け : 地域防災計画上の位置付けあり(避難所、土石流危険浸流) ○位置付け : 長寿命化計画上の位置付けあり			評価	A	
	効率性	○費用対効果(B/C) : 15.88 ○事業期間 : 9年間 ○工法等の比較検討 : 堰堤形式について比較検討 ○流域の総合調整 : 調整中(保安林あり)			評価	A	
	緊急性	○堤体の状態 : 要対策 ○堆砂状況 : 満砂 ○危険地区 : 土砂災害防止法に基づく土砂災害警戒区域あり			評価	A	
	計画熟度	○事業情報の共有 : 関係者を中心に周知 ○地域の取り組み : 協力的である(安曇野市要望あり) ○地域の合意形成 : 事業目的について合意形成が図られている ○住民との協働 : 住民参加型の事業(牧区防災会による自主避難訓練の実施、R3地域防災マップ作成予定) OPDCA 事後・再評価からのフィードバック : 事後評価 課題等整理表 整理番号:3-13			評価	A	
	建設部公共事業評価委員会の意見	緊急点検の結果、著しい損傷が認められ、破損・流出した場合には下流の保全対象に著しい被害を及ぼす恐れのある施設であることから、早期対策が必要であり、事業着手が妥当であると判断する。			採択状況	○	総合評価
長野県公共事業評価委員会の意見	建設部公共事業評価委員会の意見を妥当と判断する。						
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	妥当	評価の決定	事業着手		



位置図



流域図



事業位置



氾濫予測



野山砂防堰堤(既設石積堰堤)  
全景  
堆砂状況



堰堤工(新設)

事業概要説明図表

事業周辺環境

事後・再評価からのフィードバック

事業代表地点の緯度経度

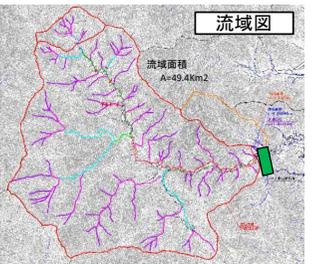
北緯:N 36° 18' 27"

東経:E 137° 48' 2"

(様式1-2)新規評価シート

建設部 砂防課

事業名	砂防(砂防堰堤の老朽化対策)		路河川名等	(砂)中房川	
事業毎の通番	2	市町村名	安曇野市	箇所名(ふりがな)	穂高有明(ほたかありあげ)
事業目的	中房川では、既設の砂防堰堤が効果を発揮し、下流の集落や田畑の土砂災害を防いでいる。しかしながら、アーチ式の大型石積堰堤である一ノ瀬砂防堰堤は水通し部の間知石が欠損するなど老朽化が著しく、また旧基準により設計されていることから不安定な状態と考えられる。また、平成30年7月豪雨では広島県内において既設石積堰堤が流出する事例も発生しており、同様の事態となる危険性がある。 このため、既設石積堰堤の代替となる砂防堰堤を新設し土砂災害を未然に防止するものである。				
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-1 県土の強靱化(災害に強いインフラ整備)		事業実施の根拠法令等	砂防法	
関連する事業、計画等					
保全対象・範囲 受益対象・範囲	人家193戸、指定避難場所(宮城地区公民館、有明高原像)、 (一)有明大町線、(一)檜ヶ岳矢村線、市道、県道橋1橋、市道橋1橋				
着手年度	2022年度(令和4年度)	事業期間	8年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)
完成年度(見込み)	2029年度(令和11年度)	費用対効果	7.5	国庫	その他 県債 一般財源
全体事業内容(主な工種)	砂防堰堤 1基 (H=15.5m、L=58.0m)			1,800,000	900,000 720,000 180,000
事業効果	直接的効果(定量的・定性的) 人家、指定避難施設、重要交通幹線などの保全 間接的効果(定量的・定性的) 災害に強い地域づくり				
必要性	○保全人家 : 193戸 ○保全公共施設 : (一)有明大町線、(一)檜ヶ岳矢村線、宮城地区公民館、有明高原像 ○保全要配慮者利用施設 : 宅幼老所ぐりの木 ○避難場所、避難路 : 宮城地区公民館、有明高原像(広域避難場所)				評価 A
重要性	○災害履歴 : なし ○交通影響 : 影響度大(県道橋、市道橋の遮断) ○位置付け : 地域防災計画上の位置付けあり(避難所、土砂流危険渓流) ○位置付け : 長寿命化計画上の位置付けあり				評価 A
効率性	○費用対効果(B/C) : 7.50 ○事業期間 : 8年間 ○工法等の比較検討 : 堰堤形式について比較検討 ○流域の総合調整 : 調整中(保安林、国立公園特別地域)				評価 A
緊急性	○堤体の状態 : 要対策 ○堆砂状況 : 満砂 ○危険地区 : 土砂災害防止法に基づく土砂災害警戒区域あり				評価 A
計画熟度	○事業情報の共有 : 関係者を中心に周知 ○地域の取り組み : 協力的である(安曇野市要望あり) ○地域の合意形成 : 事業目的について合意形成が図られている ○住民との協働 : 住民参加型の事業(古殿区宮城ブロック防災会による自主避難訓練の実施、R6地域防災マップ作成予定) ○PDCA 事後・再評価からのフィードバック : 事後評価 課題等整理表 整理番号:3-13				評価 A
建設部公共事業評価委員会の意見	緊急点検の結果、著しい損傷が認められ、破損・流出した場合には下流の保全対象に著しい被害を及ぼす恐れのある施設であることから、早期対策が必要であり、事業着手が妥当であると判断する。			採択状況	総合評価
長野県公共事業評価委員会の意見	建設部公共事業評価委員会の意見を妥当と判断する。			○	A
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	妥当	評価の決定	事業着手

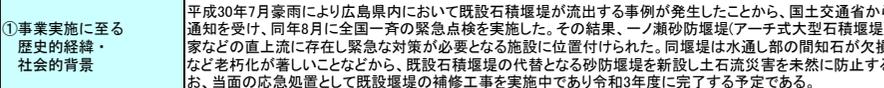


**氾濫予測**



氾濫高さ(m)  
0.01-0.5  
0.5-1.0  
1.0-2.0  
2.0-3.0  
3.0-5.0  
5.0-20.0  
20.0

**事業概要説明図表**



**事業周辺環境**

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	平成30年7月豪雨により広島県内において既設石積堰堤が流出する事例が発生したことから、国土交通省からの通知を受け、同年8月に全国一斉の緊急点検を実施した。その結果、一ノ瀬砂防堰堤(アーチ式大型石積堰堤)は人家などの直上流に存在し緊急な対策が必要となる施設に位置付けられた。同堰堤は水通し部の間知石が欠損するなど老朽化が著しいことなどから、既設石積堰堤の代替となる砂防堰堤を新設し土砂災害を未然に防止する。なお、当面の応急処置として既設堰堤の補修工事を実施中であり令和3年度に完了する予定である。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	安曇野市へ事業の必要性を説明したところ、代替の砂防堰堤建設に異議は無く、速やかに整備するよう要望された。
③事業説明等の経緯	事業説明会を令和3年7月中旬に開催予定。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	-
⑤地球温暖化への配慮 自然環境・生活環境への影響と配慮	気候変動により発生確率が高まる土砂災害を未然に防ぐため、ハード対策を推進する。 また、新設する砂防堰堤周辺の切り土法面等への緑化を積極的に実施することでCO2の吸収を促進する。
⑥人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	本事業により、地域住民の安心・安全を確保するとともに、災害に強い地域づくりを推進することで、地域防災力の向上が期待される。 [保全対象の人家戸数が多く、人口減少の影響は想定されない。]
⑦その他	砂防指定地申請予定

**事後・再評価からのフィードバック**

事後・再評価からのフィードバック	対策工は、画一的に選定せず、地域との合意形成のもと、景観・環境等を踏まえ決定する。	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 36° 22' 36" 東経:E 137° 48' 17"
------------------	---	-------------	---------------------------------------

(様式1-2)新規評価シート

建設部 砂防課

事業名	砂防		路河川名等	(砂)高山				
事業毎の通番	3	市町村名	佐久穂町	箇所名(ふりがな)	古谷(こや)			
事業目的	信濃川水系高山3は、一級河川千曲川の支漢流で流域面積 A=0.03km <sup>2</sup> であり、渓床勾配は1/2.7の急漢流である。また、既存の砂防施設はない状況である。当漢流は令和元年10月の台風19号により土石流が発生している。漢床は、表土となる有機質土及び礫化した基盤岩の風化層が不安定土砂を形成しており湛水能力に乏しい沢である。このため豪雨の際に一気に流出した水が漢床土砂と共に土石流となって流下する恐れがある。氾濫想定区域には、(国)299号、人家53戸の保全対象が存在する。本事業では、土石流捕捉対策として、砂防堰堤1基(透過型 H=10.5m、L=45.0m)並びに漢流保全工 L=37.0mを整備し、土砂災害対策を進めるものである。							
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-1 地域防災力の向上(災害に強い地域づくり)		事業実施の根拠法令等	砂防法				
関連する事業、計画等	令和元年度災害関連緊急砂防事業、激甚災害対策特別緊急事業							
保全対象・範囲 受益対象・範囲	人家53戸、国道299号110m							
着手年度	2021年度(令和3年度)	事業期間	6年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)			
完成年度(見込み)	2026年度(令和8年度)	費用対効果	1.9	国庫	その他	県債	一般財源	
全体事業内容(主な工種)	砂防堰堤 1基 漢流保全工 L=37.0m			350,000	175,000	140,000	35,000	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	人家、国道などの保全						
	間接的効果(定量的・定性的)	災害に強い地域づくり						
評価の視点	必要性	○保全人家 : 53戸(災害時孤立人家含む) ○保全公共施設 : 国道299号 ○保全要配慮者利用施設 : なし ○避難場所、避難路 : 国道299号					評価 B	
	重要性	○災害履歴 : 令和元年東日本台風(2019年) ○交通影響 : 影響度大(国道299号) ○位置付け : 長野県及び佐久穂町地域防災計画上の位置付けあり(土石流危険漢流)					評価 A	
	効率性	○費用対効果(B/C) : 1.92 ○事業期間 : 6年間 ○工法等の比較検討 : 堰堤形式について比較検討予定 ○流域の総合調整 : 調整済(保安林なし)					評価 B	
	緊急性	○地形地質 : 火山堆積物 ○流域植生 : 倒木多数 ○平均漢床勾配・土砂整備率 : 10°以上・整備率0% ○危険地区 : 土砂災害防止法に基づく土砂災害特別警戒区域あり					評価 A	
	計画熟度	○事業情報の共有 : 関係者を中心に周知 ○地域の取り組み : 町・地元要望あり ○地域の合意形成 : 事業目的について合意形成が図られている ○住民との協働 : 住民参加型の事業(地区防災マップが策定され、防災訓練が実施されている) OPDCA 事後・再評価からのフィードバック : 再評価 課題等整理表 整理番号:3-3-9					評価 A	
所管課の意見	当該漢流の保全対象には人家53戸及び国道が立地しているため、速やかな土砂災害対策が必要であり、事業着手が妥当であると判断する。			採択状況	総合評価			
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。			○	A			
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	-	評価の決定	事業着手			

**位置図**

**平面図**

**航空写真**

**事業概要説明図表**

**荒廃状況**

**保全対象**

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	本漢流は、土石流危険漢流Ⅰである。令和元年東日本台風により土砂災害が発生し、下流人家が全壊の被害を受け、漢床には不安定土砂がなお堆積している。また、漢床勾配が急で崩壊地形も認められるため、今後の豪雨等により土石流が発生する危険性がある。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	平成20年度に土砂災害防止法に基づく土砂災害警戒区域等を指定し、警戒区域内に人家等が存在することから、砂防事業の実施に係る要望を受けている。また、東日本台風時に隣接する漢流から土石流が発生し、下流人家が全壊の被害を受けたことから当漢流への対策要望も強い。
③事業説明等の経緯	関係者に事業の目的・効果等について説明済み。今後、流域に関係する地元住民を対象とした計画説明会等を実施する予定。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	-
⑤地球温暖化への配慮 自然環境・生活環境への影響と配慮	気候変動により発生確率が高まる土砂災害を未然に防ぐため、ハード対策を推進する。事業に伴う貴重動植物等への影響を最小限にするため、環境調査を実施し、その結果に基づく環境対策を講じた上で、工事を行う予定。
⑥人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	本事業により、地域住民の安心・安全を確保するとともに、災害に強い地域づくりを推進することで、地域防災力を踏まえた地域活性化への影響を最小限にするため、環境調査を実施し、その結果に基づく環境対策を講じた上で、工事を行う予定。
⑦その他	砂防指定地申請予定

事後・再評価からのフィードバック	本計画においては、流域内の状況を鑑み、流木対策の効果が高い透過型砂防堰堤を検討している。	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 36° 04' 32" 東経:E 138° 20' 30"
------------------	--	-------------	---------------------------------------

(様式1-2)新規評価シート

建設部 砂防課

事業名	砂防		路河川名等	(砂)海ノ口沢		
事業毎の通番	4	市町村名	南牧村	箇所名(ふりがな)	海ノ口(うみのくち)	
事業目的	海ノ口沢は、一般河川千曲川へ流れ込む土流危険渓流であり、斜面の荒廃により大雨時における土砂流出が懸念されている。このことから、土砂災害防止のための砂防堰堤を施工することにより、下流域の人家32戸、地域防災計画における緊急輸送路である国道141号、主要地方道である梓山海ノ口線などの保全を図る。本事業では、土流捕捉対策として、砂防堰堤1基(不透過型 H=6.5m、L=70.0m)を整備し、土砂災害対策を進めるものである。					
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-1 地域防災力の向上(災害に強い地域づくり)		事業実施の根拠法令等	砂防法		
関連する事業、計画等	なし					
保全対象・範囲 受益対象・範囲	人家32戸、国道141号(県の地域防災計画における緊急輸送路)、主要地方道梓山海ノ口線					
着手年度	2021年度(令和3年度)	事業期間	6年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)	
完成年度(見込み)	2026年度(令和8年度)	費用対効果	11.8		国庫 其他 県債 一般財源	
全体事業内容(主な工種)	砂防堰堤 1基			180,000	90,000 72,000 18,000	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	人家、国道などの保全				
	間接的効果(定量的・定性的)	災害に強い地域づくり				
評価の視点	必要性	○保全人家 : 32戸 ○保全公共施設 : 国道141号、主要地方道梓山海ノ口線 ○保全要配慮者利用施設 : なし ○避難場所、避難路 : あり(村の避難路)			評価	A
	重要性	○災害履歴 : 隣接地で土砂災害が発生(平成6年) ○交通影響 : 影響度大_国道141号、主要地方道梓山海ノ口線は地域の重要な公共交通 ○位置付け : 長野県及び南牧村地域防災計画上の位置付けあり(土流危険渓流、緊急輸送路)			評価	A
	効率性	○費用対効果(B/C) : 11.84 ○事業期間 : 6年間 ○工法等の比較検討 : 堰堤形式について比較検討予定 ○流域の総合調整 : 調整済(保安林なし)			評価	A
	緊急性	○地形地質 : 火山堆積物 ○流域植生 : 倒木多数 ○平均溪床勾配・土砂整備率 : 9°・整備率0% ○危険地区 : 土砂災害防止法に基づく土砂災害特別警戒区域あり			評価	A
	計画熟度	○事業情報の共有 : 関係者を中心に周知 ○地域の取り組み : 村・地元要望あり ○地域の合意形成 : 事業目的について合意形成が図られている ○住民との協働 : 住民参加型の事業(防災訓練が実施されている) OPDCA 事後・再評価からのフィードバック : 再評価 課題等整理表 整理番号:3-3-9			評価	A
		所管課の意見	当該渓流の保全対象には人家32戸及び緊急輸送路等が立地しているため、速やかな土砂災害対策が必要である。事業着手が妥当であると判断する。		採択状況	総合評価
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。		○	A		
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手	

**位置図**

**計画位置**

**全景**

事業概要説明図表

**流域概要図**

至 佐久 千曲川 至 荊崎

県道梓山海ノ口線

国道141

砂防堰堤 1基

砂防堰堤 1基

千曲川

佐久

保全対象 ② 人家

③ 荒廃状況

A=0.06km<sup>2</sup>

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	平成19年に土砂災害防止法の警戒区域、特別警戒区域に指定され、土砂災害のおそれがあることが周知され、ハード対策の要望が強くなった。隣接する渓流において土砂災害が発生し、砂防施設の整備が済んでいるが、渓流形状の似ている当該渓流においても、緊急輸送路におけるハード対策が急務であることから、事業を計画することとなった。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	土砂災害警戒区域内に、人家、緊急輸送路、鉄道が存在することから、南牧村から要望されている
③事業説明等の経緯	事業実施が確定次第、地元説明会を開催予定
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	—
⑤地球温暖化への配慮 自然環境・生活環境への影響と配慮	気候変動により発生確率が高まる土砂災害を未然に防ぐため、ハード対策を推進する。事業に伴う貴重動植物等への影響を最小限にするため、環境調査を実施し、その結果に基づく環境対策を講じた上で、工事を行う予定。
⑥人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	本事業により、地域住民の安心・安全を確保するとともに、災害に強い地域づくりを推進することで、地域防災力の向上が期待される。土砂災害を防止し、住環境の安全・安心を確保することにより、集落の人口減少の抑制に寄与する。また、緊急輸送路である国道141号等が保全され、物流、人流が確保される。
⑦その他	砂防指定地申請予定

事後・再評価からのフィードバック

本計画においては、流域内の状況を鑑み、流木対策の効果が高い透過型砂防堰堤を検討している。

事業代表地点の緯度経度

北緯:N 36° 00' 12" 45  
東経:E 138° 30' 02" 63

(様式1-2)新規評価シート

建設部 砂防課

事業名	砂防	路河川名等	(砂)花の木沢		
事業毎の通番	5	市町村名	川上村		
		箇所名(ふりがな)	大深山(おおみやま)		
事業目的	花の木沢は、一級河川千曲川へ流れ込む土石流危険渓流であり、斜面の荒廃により大雨時における土砂流出が懸念されている。このことから、土砂災害防止のための砂防堰堤を施工することにより、下流域の人家29戸、地域防災計画における避難所である大深山公民館などの保全を図る。本事業では、土石流捕捉対策として、砂防堰堤1基(透過型 H=10.5m、L=45.0m)を整備し、土砂災害対策を進めるものである。				
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-1 地域防災力の向上(災害に強い地域づくり)	事業実施の根拠法令等	砂防法		
関連する事業、計画等	なし				
保全対象・範囲 受益対象・範囲	人家29戸、大深山公民館(村の地域防災計画における避難所)				
着手年度	2021年度(令和3年度)	事業期間	6年間		
完成年度(見込み)	2026年度(令和8年度)	費用対効果	9.7		
全体事業内容(主な工種)	砂防堰堤 1基	事業費(千円)	220,000		
		国庫	110,000		
		其他			
		県債	88,000		
		一般財源	22,000		
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	人家、避難所などの保全			
	間接的効果(定量的・定性的)	災害に強い地域づくり			
評価の視点	必要性	○保全人家 : 29戸 ○保全公共施設 : 大深山公民館、村道 ○保全要配慮者利用施設 : なし ○避難場所、避難路 : あり(村の避難路)	評価	A	
	重要性	○災害履歴 : なし ○交通影響 : 影響度中 ○位置付け : 長野県及び川上村地域防災計画上の位置付けあり(土石流危険渓流、避難所)	評価	B	
	効率性	○費用対効果(B/C) : 9.74 ○事業期間 : 6年間 ○工法等の比較検討 : 堰堤形式について比較検討予定 ○流域の総合調整 : 調整済(保安林なし)	評価	A	
	緊急性	○地形地質 : 火山堆積物 ○流域植生 : 倒木多数 ○平均渓床勾配・土砂整備率 : 10.3°・整備率0% ○危険地区 : 土砂災害防止法に基づく土砂災害特別警戒区域あり	評価	A	
	計画熟度	○事業情報の共有 : 関係者を中心に周知 ○地域の取り組み : 町・地元要望あり ○地域の合意形成 : 事業目的について合意形成が図られている ○住民との協働 : R2地域防災マップを作成済 ○PDCA 事後・再評価からのフィードバック : 再評価 課題等整理表 整理番号:3-3-9	評価	A	
	所管課の意見	当該渓流の保全対象には人家29戸及び避難所が立地しているため、速やかな土砂災害対策が必要であり、事業着手が妥当であると判断する。	採択状況	総合評価	A
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。	○		A	
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	-	評価の決定	事業着手

**位置図**

**計画位置**

**保全対象**

① 人家

② 大深山公民館(指定避難所)

③ 荒廃状況

**流域概要**

A=0.24km<sup>2</sup>

花の木沢

砂防堰堤 1基

大深山公民館

千曲川

事業概要説明図表

①事業実施に至る経緯・社会的背景	平成19年に土砂災害防止法の警戒区域、特別警戒区域に指定され、土砂災害のおそれがあることが周知され、ハード対策の要望が強く出された。令和2年度には大深山地区防災マップを作成したことにより防災意識が高まり、避難所におけるハード対策が急務であることから、事業を計画することとなった。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	土砂災害警戒区域内に、人家、避難所が存在することから、川上村から要望されている
③事業説明等の経緯	事業実施が確定次第、地元説明会を開催予定
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	-
⑤地球温暖化への配慮 自然環境・生活環境への影響と配慮	気候変動により発生確率が高まる土砂災害を未然に防ぐため、ハード対策を推進する。事業に伴う貴重動植物等への影響を最小限にするため、環境調査を実施し、その結果に基づく環境対策を講じた上で、工事を行う予定。
⑥人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	本事業により、地域住民の安心・安全を確保するとともに、災害に強い地域づくりを推進することで、地域防災力の向上が期待される。土砂災害を防止し、住環境及び避難所等の安全・安心を確保することにより、集落の人口減少の抑制に寄与する。
⑦その他	砂防指定地申請予定

事業周辺環境

事後・再評価からのフィードバック	本計画においては、流域内の状況を鑑み、流木対策の効果が高い透過型砂防堰堤を検討している。	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 35° 35' 03" 562 東経:E 138° 20' 32" 200
------------------	--	-------------	---

(様式1-2)新規評価シート

建設部 砂防課

事業名	砂防		路河川名等	(砂)押出沢		
事業毎の通番	6	市町村名	上田市	箇所名(ふりがな)	上田原(うえだはら)	
事業目的	押出沢は、流域面積0.22km <sup>2</sup> の土石流危険渓流Ⅰである。渓床勾配が急峻、渓床には崩土や上流からの細粒土砂が不安定な状態で堆積しており、今後の豪雨等により土石流が発生する危険性がある。 保全対象には、人家190戸、上田創造館(指定避難場所)や原峠保養園(要配慮者利用施設)、倉升第2配水池(水道)、倉升公民館、地元企業などがあり、土石流が発生した場合の被害は甚大である。 このため、砂防堰堤を整備することで土石流の発生を防止・軽減し、住民の生命・財産を守りたい。					
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-1 地域防災力の向上(災害に強い地域づくり)		事業実施の根拠法令等	砂防法		
関連する事業、計画等						
保全対象・範囲 受益対象・範囲	人家190戸、上田創造館(指定避難場所)や原峠保養園(要配慮者利用施設)、倉升第2配水池(水道)、倉升公民館、地元企業など					
着手年度	2021年度(令和3年度)	事業期間	7年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)	
完成年度(見込み)	2027年度(令和9年度)	費用対効果	32.7		国庫 其他 県債 一般財源	
全体事業内容(主な工種)	砂防堰堤 2基			400,000	200,000 160,000 40,000	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	土石流災害から、人家190戸や指定避難場所、要配慮者利用施設、水道施設、公民館を保全。				
	間接的効果(定量的・定性的)	災害に強い地域づくりに寄与。				
評価の視点	必要性	○保全人家：190戸 ○保全公共施設：倉升第2配水池(水道)、倉升公民館 ○保全要配慮者利用施設：原峠保養園(要配慮者利用施設) ○避難場所、避難路：上田創造館(指定避難場所)			評価	A
	重要性	○災害履歴：令和元年台風19号災害 ○交通影響：中 上田市道 秋和神畑線 ○位置付け：長野県及び上田市地域防災計画上の位置付けあり(土石流危険渓流、指定避難場所)			評価	A
	効率性	○費用対効果(B/C)：32.69 ○事業期間：7年 ○工法等の比較検討：堰堤形式の比較検討(概略設計) ○流域の総合調整：保安林あり(関係機関と調整済み)			評価	A
	緊急性	○地形地質：地質が脆弱 ○流域植生：放置林 ○平均渓床勾配・土砂整備率：勾配6.5°・整備率0% ○危険地区：土砂災害防止法に基づく土砂災害特別警戒区域あり			評価	A
	計画熟度	○事業情報の共有：関係者を中心に周知 ○地域の取り組み：協力的である(地域住民及び上田市から土石流対策の要望あり) ○地域の合意形成：事業目的について合意形成が図られている ○住民との協働：土砂災害パトロールを実施 OPDCA 事後・再評価からのフィードバック：再評価 課題等整理表 整理番号:3-2-9			評価	B
		所管課の意見	当該渓流の保全対象には人家190戸及び要配慮者利用施設等が立地しているため、速やかな土砂災害対策が必要であり、事業着手が妥当であると判断する。			採択状況
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。			総合評価	A	
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手	

**位置図**



**流域概要図**



**保全対象**



**倉升公民館**



**倉升公民館**

**荒廃状況**



**航空写真**



①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	本渓流の流域内は、渓床勾配が急で崩壊地形が認められるとともに、渓床部には不安定土砂が堆積している。このため、今後の豪雨等により渓流直下の人家190戸、避難所等に被害のおそれがある。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	平成21年度に土砂災害防止法に基づく土砂災害警戒区域等を指定するにあたり、特別警戒区域内に人家が存在することから、砂防事業の実施に係る要望を受けている。
③事業説明等の経緯	上田市へ事業概要を説明(R4. 1月) 今後、当流域に関する地元住民を対象とした計画説明会等を実施する予定。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	—
⑤地球温暖化への配慮 自然環境・生活環境への影響と配慮	気候変動により発生確率が高まる土砂災害を未然に防ぐため、ハード対策を推進する。事業に伴う貴重動植物等への影響を最小限にするため、環境調査を実施し、その結果に基づく環境対策を講じた上で、工事を行う予定。
⑥人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	本事業により、地域住民の安心・安全を確保するとともに、災害に強い地域づくりを推進することで、地域防災力の向上が期待される。土砂災害を防止し、住環境及び避難所等の安全・安心を確保することにより、集落の人口減少の抑制に寄与する。また、市道秋和神畑線が保全され、物流、人流が確保される。
⑦その他	砂防指定地申請予定

事後・再評価からのフィードバック	○住民の安全、安心を守る砂防施設については、より一層、客観的・科学的根拠に基づき整備されるよう努める。	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 138° 13' 32" 50 東経:E 36° 23' 12" 60
------------------	---	-------------	---

(様式1-2)新規評価シート

建設部 砂防課

事業名	砂防		路河川名等	(砂)魚の沢		
事業毎の通番	7	市町村名	上田市	箇所名(ふりがな)	秋和(あきわ)	
事業目的	魚の沢は、流域面積1.02km <sup>2</sup> の土石流危険渓流Ⅰであり、渓床勾配が1/6と急勾配を呈している。また、流域内には崩壊地形が認められるとともに、渓床部は不安定土砂が堆積しており、今後の豪雨等により土石流が発生する危険性がある。保全対象区域には、人家61戸のほか、中部電力(株)変電所、緊急輸送路に指定されている(国)18号上田バイパスがあり、土石流が発生した場合の被害は甚大である。このため、砂防堰堤を整備することで土石流の発生を防止・軽減し、住民の生命・財産を守りたい。					
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-1 地域防災力の向上(災害に強い地域づくり)		事業実施の根拠法令等	砂防法		
関連する事業、計画等						
保全対象・範囲 受益対象・範囲	人家61戸、国道18号上田バイパス380m(第一次緊急輸送路)、中部電力秋和変電所					
着手年度	2021年度(令和3年度)	事業期間	5年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)	
完成年度(見込み)	2025年度(令和7年度)	費用対効果	18.3		国庫 其他 県債 一般財源	
全体事業内容(主な工種)	砂防堰堤 1基 渓流保全工 L=50.0m			220,000	110,000 88,000 22,000	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	土石流災害から、人家61戸ほか、国道18号上田バイパスを保全。				
	間接的効果(定量的・定性的)	災害に強い地域づくりに寄与。				
評価の視点	必要性	○保全人家：61戸 ○保全公共施設：中部電力(株)秋和変電所、国道18号 ○保全要配慮者利用施設：なし ○避難場所、避難路：国道18号上田バイパス(第一次緊急輸送路)			評価	A
	重要性	○災害履歴：なし ○交通影響：大 第一次緊急輸送路あり(国道18号上田バイパス) ○位置付け：長野県及び上田市地域防災計画上の位置付けあり(土石流危険渓流、緊急輸送路)			評価	B
	効率性	○費用対効果(B/C)：18.25 ○事業期間：5年 ○工法等の比較検討：堰堤形式の比較検討(概略設計) ○流域の総合調整：保安林(関係機関と調整中)			評価	A
	緊急性	○地形地質：地質が脆弱 ○流域植生：放置林 ○平均渓床勾配・土砂整備率：勾配9.8°・整備率0% ○危険地区：土砂災害防止法に基づく土砂災害特別警戒区域あり			評価	A
	計画熟度	○事業情報の共有：関係者を中心に周知 ○地域の取り組み：協力的である(地域住民及び上田市から土石流対策の要望あり) ○地域の合意形成：事業目的について合意形成が図られている ○住民との協働：住民参加型の事業(防災訓練が実施されている) OPDCA 事後・再評価からのフィードバック：再評価 課題等整理表 整理番号:3-2-9			評価	A
所管課の意見	当該渓流の保全対象には人家61戸及び緊急輸送路等が立地しているため、速やかな土砂災害対策が必要であり、事業着手が妥当であると判断する。		採択状況	総合評価		
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。		○	A		
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手	

**位置図**

**事業箇所**

**保全対象**

**中部電力(株)秋和変電所**

**緊急輸送路(第一次)国道18号**

**流域概要図**

A=1.02km<sup>2</sup>

**砂防堰堤 1基**

**航空写真**

**荒廃状況**

**事業概要説明図表**

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	本渓流の流域内は、渓床勾配が急で崩壊地形が認められるとともに、渓床部には不安定土砂が堆積している。このため、今後の豪雨等により渓流直下の人家61戸、緊急輸送路等に被害のおそれがある。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	平成21年度に土砂災害防止法に基づく土砂災害警戒区域等を指定するにあたり、特別警戒区域内に人家が存在することから、砂防事業の実施に係る要望を受けている。
③事業説明等の経緯	上田市へ事業概要を説明(R元.5月)今後、当流域に関係する地元住民を対象とした計画説明会等を実施する予定。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	—
⑤地球温暖化への配慮 自然環境・生活環境への影響と配慮	気候変動により発生確率が高まる土砂災害を未然に防ぐため、ハード対策を推進する。事業に伴う貴重動植物等への影響を最小限にするため、環境調査を実施し、その結果に基づく環境対策を講じた上で、工事を行う予定。
⑥人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	本事業により、地域住民の安心・安全を確保するとともに、災害に強い地域づくりを推進することで、地域防災力の向上が期待される。土砂災害を防止し、住環境の安全・安心を確保することにより、集落の人口減少の抑制に寄与する。また、緊急輸送路である国道18号が保全され、物流、人流が確保される。
⑦その他	砂防指定地申請予定

**事後・再評価からのフィードバック**

○住民の安全、安心を守る砂防施設については、より一層、客観的・科学的根拠に基づき整備されるよう努める。	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 138° 13' 51" 56 東経:E 36° 25' 15" 65
---	-------------	---

(様式1-2)新規評価シート

建設部 砂防課

事業名	砂防		路河川名等	(砂)堀久保沢				
事業毎の通番	8	市町村名	諏訪市	箇所名(ふりがな)	角間新田(かくましんでん)			
事業目的	堀久保沢は、長野県南部の諏訪市上諏訪に位置し、保全対象として人家44戸、地域の重要な幹線道路であり緊急交通路接続道路等である市道1-13号線(角間新田線)を含む土石流危険渓流1である。流域内は、渓床勾配が急で渓床部は不安定土砂が堆積しており、今後の豪雨等により土石流が発生する危険性がある。このため、砂防堰堤を施工し土石流災害を未然に防止する。							
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-1 県土の強靱化(災害に強いインフラ整備)		事業実施の根拠法令等	砂防法				
関連する事業、計画等								
保全対象・範囲 受益対象・範囲	人家44戸 市道1-13号線							
着手年度	2021年度(令和3年度)	事業期間	8年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)			
完成年度(見込み)	2028年度(令和10年度)	費用対効果	7.6	国庫	その他	県債	一般財源	
全体事業内容(主な工種)	砂防堰堤 1基			410,000	205,000	164,000	41,000	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	・人家、緊急交通路接続道路等などの保全						
	間接的効果(定量的・定性的)	・災害に強い地域づくり						
評価の視点	必要性	○保全人家 : 44戸 ○保全公共施設 : 緊急交通路接続道路等である市道1-13号線、その他市道2路線 ○保全要配慮者利用施設 : なし ○避難場所、避難路 : 緊急交通路接続道路等である市道1-13号線					評価	
	重要性	○災害履歴 : 令和2年8月の大雨により市道及び農業用水路へ土砂流出 ○交通影響 : 影響度大(緊急交通路接続道路等である市道1-13号線) ○位置付け : 長野県及び諏訪市地域防災計画上の位置付けあり(緊急交通路接続道路等、避難所、土石流危険渓流1)					評価	
	効率性	○費用対効果(B/C) : 7.56 ○事業期間 : 8年間 ○工法等の比較検討 : 堰堤形式について比較検討予定 ○流域の総合調整 : 調整済(保安林なし)					評価	
	緊急性	○地形地質 : 地質が脆弱(安山岩質) ○流域植生 : 植林、放置林混在 ○平均渓床勾配・土砂整備率 : 11.3°・整備率0% ○危険地区 : 土石流災害防止法に基づく土石流災害特別警戒区域あり					評価	
	計画熟度	○事業情報の共有 : 関係者を中心に周知 ○地域の取り組み : 協力的である(諏訪市要望あり) ○地域の合意形成 : 事業目的について合意形成が図られている ○住民との協働 : 住民参加型の事業(ハザードマップが策定され、防災訓練が実施されている) ○OPDCA 事後・再評価からのフィードバック : 再評価 課題等整理表 整理番号:3-3-9					評価	
	所管課の意見	当該渓流の保全対象には人家44戸及び緊急交通路接続道路等が立地しているため、速やかな土砂災害対策が必要であり、事業着手が妥当であると判断する。			採択状況	総合評価		
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。			○	A			
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手			

**位置図**

**流域概要図**

**至小諸**

**市道1-13号線(緊急交通路接続道路等)**

**至諏訪市街**

**砂防堰堤 1基**

**A=0.22km<sup>2</sup>**

**1307**

**保全対象**

**航空写真**

**崩壊状況**

**緊急交通路接続道路等市道1-13号線**

**荒廃状況**

**砂防堰堤 1基**

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	本渓流は土石流危険渓流であり、保全対象として人家22戸、1次避難所であるくみ台公民館、地域の重要な幹線道路である市道1-13号線を含む土石流危険渓流1である。流域内は、渓床勾配が急で渓床部は不安定土砂が、源頭部には鉄平石が多く堆積しており、今後の豪雨等により土石流が発生する危険性がある。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	平成27年度に土石流災害防止法に基づく土砂災害警戒区域等を指定し、警戒区域内に人家が存在することから、砂防事業の実施に係る要望を受けている。
③事業説明等の経緯	関係者に事業の目的・効果等について説明済み。今後、流域に係る地元住民を対象とした計画説明会等を実施する予定。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	—
⑤地球温暖化への配慮 自然環境・生活環境への影響と配慮	気候変動により発生確率が高まる土砂災害を未然に防ぐため、ハード対策を推進する。事業に伴う貴重動植物等への影響を最小限にするため、環境調査を実施し、その結果に基づく環境対策を講じた上で、工事を行う予定。
⑥人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	本事業により、地域住民の安心・安全を確保するとともに、災害に強い地域づくりを推進することで、地域防災力の向上が期待される。土砂災害を防止し、住環境及び避難所等の安全・安心を確保することにより、集落の人口減少の抑制に寄与する。また、緊急交通路接続道路である市道1-13号線が保全され、物流、人流が確保される。
⑦その他	砂防指定地申請予定

事後・再評価からのフィードバック

本計画においては、流域内の状況を鑑み、流木対策の効果が高い透過型砂防堰堤を検討している。

事業代表地点の緯度経度

北緯:N 37° 17' 7"

東経:E 137° 41' 17"

(様式1-2)新規評価シート

建設部 砂防課

事業名	砂防		路河川名等	(砂)山吹沢		
事業毎の通番	9	市町村名	諏訪市	箇所名(ふりがな)	大和(おわ)	
事業目的	山吹沢は、長野県南部の諏訪市に位置し、保全対象として人家154戸、大和北部公民館(指定緊急避難所)、老人ホーム聖母寮(要配慮者利用施設)、デイサービスセンター 聖母憩の家(要配慮者利用施設)、国道20号(第一次緊急輸送路)、JR中央本線を含む土石流危険渓流Iである。流域内は、渓床勾配が急で渓床部は不安定土砂が堆積しており、今後の豪雨等により土石流が発生する危険性がある。このため、砂防堰堤を施工し土石流災害を未然に防止する。					
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-1 県土の強靱化(災害に強いインフラ整備)		事業実施の根拠法令等	砂防法		
関連する事業、計画等						
保全対象・範囲 受益対象・範囲	人家154戸、大和北部公民館(指定緊急避難所)、老人ホーム聖母寮(要配慮者利用施設)、デイサービスセンター 聖母憩の家(要配慮者利用施設)、国道20号(第一次緊急輸送路)、JR中央本線					
着手年度	2021年度(令和3年度)	事業期間	8年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)	
完成年度(見込み)	2028年度(令和10年度)	費用対効果	42.0	国庫	その他 県債 一般財源	
全体事業内容(主な工種)	砂防堰堤 1基			300,000	150,000 135,000 15,000	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	・人家、要配慮者利用施設、避難所施設、緊急輸送路等の保全				
	間接的効果(定量的・定性的)	・災害に強い地域づくり				
評価の視点	必要性	○保全人家 : 154戸 ○保全公共施設 : 国道20号(第一次緊急輸送路)、JR中央本線、大和北部公民館(指定緊急避難所) ○保全要配慮者利用施設 : 老人ホーム聖母寮(要配慮者利用施設)、デイサービスセンター 聖母憩の家(要配慮者利用施設) ○避難場所、避難路 : 国道20号(第一次緊急輸送路)、大和北部公民館(指定緊急避難所)			評価	A
	重要性	○災害履歴 : 令和3年8月豪雨により土石流が発生し、住宅地へ土砂及び流木が流出した ○交通影響 : 影響度大(国道20号(第一次緊急輸送路)、JR中央本線) ○位置付け : 長野県及び諏訪市地域防災計画上の位置付けあり(第一次緊急輸送路、避難所、土石流危険渓流I)			評価	A
	効率性	○費用対効果(B/C) : 42.03 ○事業期間 : 8年間 ○工法等の比較検討 : 堰堤形式について比較検討予定 ○流域の総合調整 : 調整済(保安林なし)			評価	A
	緊急性	○地形地質 : 地質が脆弱かつ、地すべり地形あり ○流域植生 : 倒木、枯損木多数あり ○平均渓床勾配・土砂整備率 : 15.0°・整備率0% ○危険地区 : 土石流災害防止法に基づく土石流災害特別警戒区域あり			評価	A
	計画熟度	○事業情報の共有 : 関係者を中心に周知 ○地域の取り組み : 協力的である(諏訪市要望あり) ○地域の合意形成 : 事業目的について合意形成が図られている ○住民との協働 : 住民参加型の事業(ハザードマップが策定され、防災訓練が実施されている) ○PDCA 事後・再評価からのフィードバック : 再評価 課題等整理表 整理番号:3-3-9			評価	A
	所管課の意見	当該渓流の保全対象には人家154戸及び要配慮者利用施設等が立地しているため、速やかな土砂災害対策が必要であり、事業着手が妥当であると判断する。		採択状況	総合評価	
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。		○	A		
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	-	評価の決定	事業着手	

**位置図**

**事業箇所**

諏訪市役所

**航空写真**

**砂防堰堤**

**流域概要図**

流域面積 0.03km<sup>2</sup>

国道20号(第一次緊急輸送路)

JR中央本線

老人ホーム聖母寮  
デイサービスセンター 聖母憩の家(要配慮者利用施設)

大和北部公民館(指定緊急避難場)

砂防堰堤

**荒廃状況**

①

**保全対象**

②

国道20号及びJR中央本線

**老人ホーム聖母寮**

③

**事業概要説明図表**

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	本渓流は土石流危険渓流であり、保全対象として人家154戸、大和北部公民館(指定緊急避難所)、老人ホーム聖母寮(要配慮者利用施設)、デイサービスセンター 聖母憩の家(要配慮者利用施設)、国道20号(第一次緊急輸送路)、JR中央本線を含む土石流危険渓流Iである。流域内は、渓床勾配が急で渓床部は不安定土砂が堆積しており、今後の豪雨等により土石流が発生する危険性がある。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	土石流災害防止法に基づく土石流災害警戒区域等を指定し、特別警戒区域内に人家が存在することから、砂防事業の実施に係る要望を受けている。
③事業説明等の経緯	関係者に事業の目的・効果等について説明済み。今後、流域に関係する地元住民を対象とした計画説明会等を実施する予定。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	-
⑤地球温暖化への配慮 自然環境・生活環境への影響と配慮	気候変動により発生確率が高まる土石流災害を未然に防ぐため、ハード対策を推進する。事業に伴う貴重動植物等への影響を最小限にするため、環境調査を実施し、その結果に基づく環境対策を講じた上で、工事を行う予定。
⑥人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	本事業により、地域住民の安心・安全を確保するとともに、災害に強い地域づくりを推進することで、地域防災力の向上が期待される。土石流災害を防止し、住環境及び避難所等の安全・安心を確保することにより、集落の人口減少の抑制に寄与する。また、緊急輸送路である国道20号等が保全され、物流、人流が確保される。
⑦その他	砂防指定地申請予定

**事後・再評価からのフィードバック**

本計画においては、流域内の状況を鑑み、流木対策の効果が高い透過型砂防堰堤を検討している。	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 36° 06' 08" 東経:E 138° 11' 47"
--	-------------	---------------------------------------

(様式1-2)新規評価シート

建設部 砂防課

事業名	砂防		路河川名等	(砂)矢口		
事業毎の通番	10	市町村名	辰野町	箇所名(ふりがな)	北大出(きたおおいで)	
事業目的	矢口は、長野県南部の上伊那郡辰野町に位置し、保全対象として人家412戸、避難所である三ツ谷公民館、地域の主要幹線である(主)伊那箕輪線のほか、要配慮者利用施設であり、避難所でもある辰野町羽北保育園を含む土石流危険渓流Ⅰである。流域内は、渓床勾配が急で崩壊地形が認められるとともに、渓床部には不安定土砂が堆積しており、今後の豪雨等により土石流が発生する危険性がある。このため、砂防堰堤を施工し土石流災害を未然に防止するものである。					
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-1 地域防災力の向上(災害に強い地域づくり)		事業実施の根拠法令等	砂防法		
関連する事業、計画等						
保全対象・範囲 受益対象・範囲	人家412戸、三ツ谷公民館、辰野町羽北保育園 県道1,860m、市道11,800m					
着手年度	2021年度(令和3年度)	事業期間	9年間		事業費(千円)	
完成年度(見込み)	2029年度(令和11年度)	費用対効果	48.4		財源内訳(千円)	
全体事業内容(主な工種)	砂防堰堤 2基 渓流保全工 L=300m		500,000	250,000	国庫 200,000 一般財源 50,000	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	人家、指定避難施設、重要交通幹線などの保全				
	間接的効果(定量的・定性的)	災害に強い地域づくり				
評価の視点	必要性	○保全人家 : 412戸 ○保全公共施設 : (主)伊那箕輪線、三ツ谷公民館、辰野町羽北保育園 ○保全要配慮者利用施設 : 辰野町羽北保育園 ○避難場所 : 三ツ谷公民館、辰野町羽北保育園			評価	A
	重要性	○災害履歴 : なし ○交通影響 : 影響度大((主)伊那箕輪線) ○位置付け : 長野県及び辰野町地域防災計画上に位置付けあり(土石流危険渓流、避難所)			評価	B
	効率性	○費用対効果(B/C) : 48.40 ○事業期間 : 9年間 ○工法等の比較検討 : 堰堤形式について比較検討予定 ○流域の総合調整 : 調整済(保安林なし)			評価	A
	緊急性	○地形地質 : 地質が脆弱 ○流域植生 : 放置林 ○平均渓床勾配・土砂整備率 : 10°以上・整備率0% ○危険地区 : 土砂災害防止法に基づく土砂災害特別警戒区域あり			評価	A
	計画熟度	○事業情報の共有 : 今後、関係者を中心に周知予定 ○地域の取り組み : 辰野町から地元要望あり ○地域の合意形成 : 今後、事業目的について合意形成予定 ○住民との協働 : 土砂災害パトロール実施予定 OPDCA 事後・再評価からのフィードバック : 再評価 課題等整理表 整理番号:3-3-9			評価	B
	所管課の意見	当該渓流の保全対象には人家412戸及び要配慮者利用施設等が立地しているため、速やかな土砂災害対策が必要であり、事業着手が妥当であると判断する。		採択状況	○ A	
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。					
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	-		事業着手	

**位置図**

**流域概要図**

**事業概要説明図表**

**航空写真**

**① 流域状況**

**② 保全対象**

**③ 保全対象**

**④ 保全対象**

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	矢口は、長野県南部の上伊那郡辰野町に位置し、保全対象として人家412戸、避難所である三ツ谷公民館、地域の主要幹線である(主)伊那箕輪線のほか、要配慮者利用施設であり、避難所でもある辰野町羽北保育園を含む土石流危険渓流Ⅰである。流域内は、渓床勾配が急で崩壊地形が認められるとともに、渓床部には不安定土砂が堆積しており、今後の豪雨等により土石流が発生する危険性がある。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	辰野町へ新規事業箇所として検討中であることを説明事業への協力を要請
③事業説明等の経緯	今後、流域に関係する関係者・地元住民を対象とした計画説明会等を実施する予定。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	-
⑤地球温暖化への配慮 自然環境・生活環境への影響と配慮	気候変動により発生確率が高まる土砂災害を未然に防ぐため、ハード対策を推進する。事業に伴う自然環境等への影響を最小限にするため、詳細設計時に環境対策を検討予定。
⑥人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	本事業により、地域住民の安心・安全を確保するとともに、災害に強い地域づくりを推進することで、地域防災力の向上が期待される。土砂災害を防止し、住環境及び避難所等の安全・安心を確保することにより、集落の人口減少の抑制に寄与する。また、県道伊那箕輪線が保全され、物流、人流が確保される。
⑦その他	砂防指定地申請予定

事後・再評価からのフィードバック

構造検討にあたっては、土石流・流木対策における防災効果が十分に発揮されるように、上流の状況などを加味した検討を行う。

事業代表地点の緯度経度

北緯:N 35° 57' 2"

東経:E 137° 57' 45"

(様式1-2)新規評価シート

建設部 砂防課

事業名		砂防		路河川名等		(砂)箱川		
事業毎の通番		11	市町村名	売木村	箇所名(ふりがな)	岩倉(いわくら)		
事業概要	事業目的	箱川は、長野県南部の下伊那郡売木村に位置し、保全対象として人家9戸、村指定避難施設である岩倉生活改善センター、地域の重要な幹線道路であり、第二次緊急輸送路である国道418号を含む土石流危険渓流Ⅰである。流域内は、渓床勾配が急で渓床部は不安定土砂が堆積しており、今後の豪雨等により土石流が発生する危険性がある。このため、砂防堰堤を施工し土石流災害を未然に防止する。						
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-1 県土の強靱化(災害に強いインフラ整備)		事業実施の根拠法令等		砂防法		
	関連する事業、計画等							
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	人家9戸、指定避難施設(岩倉生活改善センター) 国道418号、村道、橋梁1基						
	着手年度	2021年度(令和3年度)	事業期間	8年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)		
	完成年度(見込み)	2028年度(令和10年度)	費用対効果	2.3	国庫	その他	県債	一般財源
	全体事業内容(主な工種)	砂防堰堤 1基			410,000	205,000	164,000	41,000
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	・人家、指定避難施設、重要交通幹線などの保全						
	間接的効果(定量的・定性的)	・災害に強い地域づくり						
評価の視点	必要性	○保全人家 : 9戸 ○保全公共施設 : 国道418号、村道、岩倉生活改善センター ○保全要配慮者利用施設 : なし ○避難場所、避難路 : 国道418号(第二次緊急輸送路)、岩倉生活改善センター(指定避難所)					評価	B
	重要性	○災害履歴 : なし ○交通影響 : 影響度大(国道418号(第二次緊急輸送路)) ○位置付け : 長野県及び売木村地域防災計画上の位置付けあり(緊急輸送路、避難所、土石流危険渓流Ⅰ)					評価	B
	効率性	○費用対効果(B/C) : 2.25 ○事業期間 : 8年間 ○工法等の比較検討 : 堰堤形式について比較検討予定 ○流域の総合調整 : 調整済(保安林なし)					評価	A
	緊急性	○地形地質 : 地質が脆弱(花崗岩質) ○流域植生 : 放置林 ○平均渓床勾配・土砂整備率 : 12°・整備率0% ○危険地区 : 土石流危険防止法に基づく土石流災害特別警戒区域あり					評価	A
	計画熟度	○事業情報の共有 : 関係者を中心に周知 ○地域の取り組み : 協力的である(売木村要望あり) ○地域の合意形成 : 事業目的について合意形成が図られている ○住民との協働 : 住民参加型の事業(地区防災マップが策定され、防災訓練が実施されている) ○OPDCA 事後・再評価からのフィードバック : 再評価 課題等整理表 整理番号:3-3-9					評価	A
	所管課の意見	当該渓流の保全対象には人家9戸及び避難所等が立地しているため、速やかな土石流災害対策が必要であり、事業着手が妥当であると判断する。			採択状況	総合評価		
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。			○	A			
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	-		評価の決定	事業着手		

**位置図**

**流域概要図**

**航空写真**

事業概要説明図表

① 緊急輸送路(第2次)国道418号

② 指定避難所 生活改善センター

③ 荒廃状況

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	本渓流は土石流危険渓流であり、保全対象として人家9戸、指定避難施設である岩倉生活改善センター、地域の重要な幹線道路である国道418号を含む土石流危険渓流Ⅰである。流域内は、渓床勾配が急で渓床部は不安定土砂が堆積しており、今後の豪雨等により土石流が発生する危険性がある。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	平成27年度に土石流災害防止法に基づく土石流災害警戒区域等を指定し、警戒区域内に人家等が存在することから、砂防事業の実施に係る要望を受けている。
③事業説明等の経緯	関係者に事業の目的・効果等について説明済み。今後、流域に関係する地元住民を対象とした計画説明会等を実施する予定。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	-
⑤地球温暖化への配慮 自然環境・生活環境への影響と配慮	気候変動により発生確率が高まる土石流災害を未然に防ぐため、ハード対策を推進する。事業に伴う貴重動植物等への影響を最小限にするため、環境調査を実施し、その結果に基づく環境対策を講じた上で、工事を予定。
⑥人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	本事業により、地域住民の安心・安全を確保するとともに、災害に強い地域づくりを推進することで、地域防災力の向上が期待される。土砂災害を防止し、住環境及び避難所等の安全・安心を確保することにより、集落の人口減少の抑制に寄与する。また、緊急輸送路である国道418号等が保全され、物流、人流が確保される。
⑦その他	砂防指定地申請予定

事後・再評価からのフィードバック	本計画においては、流域内の状況を鑑み、流木対策の効果が高い透過型砂防堰堤を検討している。	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 37° 17' 7" 東経:E 137° 41' 17"
------------------	--	-------------	--------------------------------------



(様式1-2)新規評価シート

建設部 砂防課

事業名		砂防		路河川名等		(砂)宮沢			
事業毎の通番		13	市町村名	木祖村	箇所名(ふりがな)		神出(じんで)		
事業概要	事業目的	宮沢は、長野県西部の木祖村に位置し、保全対象として人家23戸、地域防災計画で避難施設に指定されている菅公民館など、地域の正確拠点となる施設が位置する溪流であり、土石流危険渓流に指定されている。過去には、豪雨によって土砂が神出集落、村道管線へ流出する災害が発生しており、土石流の発生の恐れが高いため、早急な対策を必要とする。							
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-1 地域防災力の向上(災害に強い地域づくり)		事業実施の根拠法令等		砂防法			
	関連する事業、計画等								
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	人家23戸、避難施設(菅公民館)							
	着手年度	2021年度(令和3年度)	事業期間	5年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)			
	完成年度(見込み)	2025年度(令和7年度)	費用対効果	3.4		国庫	其他	県債	一般財源
	全体事業内容(主な工種)	溪流保全工 L=340m			350,000	175,000		140,000	35,000
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	人家、避難施設などの保全							
	間接的効果(定量的・定性的)	災害に強い地域づくり							
評価の視点	必要性	○保全人家 : 23戸 ○保全公共施設 : 菅公民館、村道 ○保全要配慮者利用施設 : なし ○避難場所、避難路 : 菅公民館、村道管線						評価	A
	重要性	○災害履歴 : 2020年(令和2年7月梅雨前線豪雨)、2021年(令和3年豪雨及び秋雨前線豪雨) ○交通影響 : 影響度中 木祖村道 ○位置付け : 長野県及び木祖村地域防災計画上の位置付けあり(土石流危険渓流)						評価	A
	効率性	○費用対効果(B/C) : 3.43 ○事業期間 : 5年間 ○工法等の比較検討 : 溪流保全工形式について比較検討予定 ○流域の総合調整 : 調整済(保安林なし)						評価	A
	緊急性	○地形地質 : 古生層・中生層 ○流域植生 : 放置林 ○平均渓床勾配・土砂整備率 : 5.8°・整備率26.5% ○危険地区 : 土砂災害防止法に基づく土砂災害特別警戒区域						評価	A
	計画熟度	○事業情報の共有 : 関係者を中心に周知 ○地域の取り組み : 木祖村から要望あり ○地域の合意形成 : 事業目的について合意形成が図られている ○住民との協働 : 地区防災マップに位置づけ OPDCA 事後・再評価からのフィードバック : 再評価 課題整理表 整理番号番:3-2-9						評価	A
	所管課の意見	当該溪流の保全対象には、人家23戸及び避難所等が立地しているため速やかな土砂災害対策が必要であり、事業着手が妥当であると判断する。				採択状況	総合評価		
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。				○	A			
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	-		評価の決定	事業着手			

事業概要説明図表	【位置図、平面図、構造図等】		
事業周辺環境	状況写真		
	①		
	②		
	③		
	①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	本溪流は、長野県西部の木祖村に位置し、保全対象として人家23戸、地域防災計画で避難施設に指定されている菅公民館など、地域の正確拠点となる施設が位置する溪流であり、土石流危険渓流に指定されている。過去には、豪雨によって土砂が神出集落、村道管線へ流出する災害が発生しており、土石流の発生の恐れが高いため、早急な対策を必要とする。	
	②地域からの要望経緯及び地域の関わり	過去に土砂災害が発生していることから、施設整備の要望を受けている。	
③事業説明等の経緯	本溪流は過去に土砂災害が発生しており、警戒区域内の人家等への被害が確認されているため、早期の整備が求められる。		
④他事業・プロジェクトとの整合、関連			
⑤地球温暖化への配慮 自然環境・生活環境への影響と配慮	気候変動により発生確率が高まる土砂災害を未然に防ぐため、ハード対策を推進する。事業に伴う貴重動植物等への影響を最小限にするため、環境調査を実施し、その結果に基づき環境対策を講じた上で、工事を行う予定。		
⑥人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	本事業により、地域住民の安心・安全を確保するとともに、災害に強い地域づくりを推進することで、地域防災力の向上が期待される。土砂災害を防止し、住環境の安全・安心を確保することにより、集落の人口減少の抑制に寄与する。		
⑦その他	追加砂防指定予定		
事後・再評価からのフィードバック	住民の安全、安心を守る砂防施設については、より一層、客観的・科学的根拠に基づき整備されるよう努める。	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 35° 56' 14" 東経:E 137° 45' 29"